

令和6年度 第2回羽島市地域公共交通協議会 議事録

日 時	令和6年6月11日（火） 午後2時00分から午後3時30分まで	
場 所	羽島市役所3階 301会議室	
出席者	（敬称略） 会長代理 生活環境部長 高橋 宏成 副会長 （大）東海国立大学機構岐阜大学地域科学部地域政策学科教授 應 江黔 委員 名阪近鉄バス(株)乗合バス営業部長 山田 規光久 委員 岐阜羽島バス・タクシー(株)代表取締役 安田 篤史 委員 スイトトラベル(株)バス事業部部長 西川 勝則 委員 東海旅客鉄道(株)岐阜羽島駅長 野上 重和 委員 名古屋鉄道(株)地域活性化推進本部地域連携部交通サービス担当課長 高井 勇輔 （代理出席：小椋 浩一） 委員 名阪近鉄バス労働組合執行委員長 加藤 浩司 委員 羽島市老人クラブ連合会女性部長 村上 由紀子 委員 公募委員 植村 佳代 委員 公募委員 小川 真由美 委員 岐阜運輸支局首席運輸企画専門官 下平 真一郎 （代理出席：黒田 博昭） （随行：鈴木 将輝） 委員 岐阜羽島警察署交通課長 瀬瀬 夕介 委員 羽島市健福祉部長 三輪 弘司 委員 羽島市建設部長 藤井 義郎 事務局 生活安全課長 鈴木 巨祥 事務局 同課公共交通係長 清水 孝明	

要 旨	1 開会 2 あいさつ 3 報告事項 報第1号 コミュニティバスの利用状況について (事務局) コミュニティバスの利用状況について(資料1)説明 (質問意見なし) 報第2号 地域公共交通計画の目標達成状況について (事務局) 地域公共交通計画の目標達成状況(資料2-1)(資料2-2)について説明 (質問意見なし) 報第3号 令和5年度地域公共交通確保維持改善事業二次評価について (事務局) 令和5年度地域公共交通確保維持改善事業二次評価(資料3)について説明 (質問意見なし) 4 協議事項 議第1号 令和7年度羽島市地域公共交通計画「別紙」(案)について (事務局) 令和7年度羽島市地域公共交通計画「別紙」(案)(資料5-1)(資料5-2)について説明 (委員) 実証実験中の mobi との兼ね合いについて、羽島市としてどう考えているか。 (事務局) 地域の公共交通のあり方を考えるにあたり、mobi の実証実験には期待しており、mobi としても国の共創補助金を申請する予定である。mobi が本格運行となった場合でも、コミバス、mobi、鉄道が、それぞれの担える部分を互いに補完しながら共存を図り、新しい形態として mobi を組み込んでいけるようにしたいと考えている。 (令和7年度羽島市地域公共交通計画「別紙」(案)について承認された)
-----	---

議第 2 号 羽島市地域公共交通計画策定スケジュール（案）について

（事務局）

羽島市地域公共交通計画策定スケジュール（案）（資料 6）について説明

（質問意見なし）

（羽島市地域公共交通計画策定スケジュール（案）について承認された）

（3 報告事項）

報第 4 号 デマンド型交通 mobi の運行実績について

（Community Mobility(株)工藤氏）

デマンド型交通 mobi の運行実績（資料 4）について説明

（委員）

mobi の実証運行開始から 8 ヶ月が経つが、その間に物価も上昇しており、タクシー運賃も上がる可能性がある。mobi の運賃も変更の必要がないか検討してほしい。市民からは小熊、正木、堀津の各方面にも延ばしてほしいという声もある。電話での予約受付時間が 10 時から 19 時となっているが、運行時間は 8 時から 20 時なので、時間が拡大できるとよいと思う。

（委員）

mobi は便利な移動手段だが、高齢者には知らない方も多いため、会合などで説明すれば利用が増えるのではないかと。喫茶店の店員、Community Mobility さん等から紹介されたことも、利用者の増加要因であると思う。mobi と公共バスの両方のいいところを使い、上手に賢く利用できればと思う。

5 その他

（名阪近鉄バス 山田委員）

2024 年問題で労働時間の規制が厳しくなり、当社でも運転手不足が深刻であり、路線バスを運行するため、学校行事等で観光バスを動かさない状況である。運転手の処遇を改善しなければ新たな運転手が集まらず、今の運転手も離職してしまう。5 月に職業運転手に魅力を持ってもらう取り組みとして、西濃自動車学校でバス運転体験会を実施した。地域公共交通計画に、将来を担う子どもがバスの見学に行くような取り組みを入れるのはいかがか。羽島市も人口減少が始まっており、愛知県は賃金が高いこともあるため、運転手が愛知県に流れる可能性がある。デマンド交通も運転手がいないと成り立たないため、運転手不足の観点も踏まえて計画を策定してほしい。

（委員）

公共交通の利用者はコロナ前の 8～9 割程度まで回復しているが、利用者を増やすためには公共交通を魅力的かつ効率的なものにしていけないといけない。羽島市では幸いバス、鉄道、mobi がそれぞれ努力されているが、公共交通は地域との連携が重要であり、喫茶店と提携し回数券などで飲食の割引ができれば mobi も喫茶店も利用が増えるのではないかと。

名鉄は非常に重要な公共交通であるものの利用者が回復していないが、減少の理由や対策はあるか。

(名古屋鉄道 小椋委員)

名鉄全体では、学生の利用者は概ね戻っているが、通勤で電車を利用される方の回復が鈍い。車に一度シフトした方が戻っていないと受け止めている。

(委員)

通勤通学で公共交通から自家用車に転換する流れがあると将来的に厳しい。鉄道は土地利用、都市計画と一体となって考える必要があるため、羽島市と名鉄で長期的に連携を考えていただけたらと思う。

(委員)

運転手の不足に関して、小学生・中学生向けに運転手の職業もあることをアピールができればと思った。mobi が2年目も運行されることはありがたいが、高齢者はアプリを使いこなせない方も多いので、電話でも事前予約できるようになるといいと思う。

(Community Mobility(株)工藤氏)

他の地域でも同様の意見をいただいているが、現状では、事前予約はアプリのみでの対応とさせていただいている。コールセンターも人材不足で対応が難しいため、高齢者等に対してアプリでの予約方法の説明を丁寧に行っていきたい。東大阪市では、何度も説明会を開き、高齢者の大半にアプリで予約していただいている地域もある。

(事務局)

これまでの出前講座では、バスに乗っていただくアピールがメインとなっていたが、内容を再考し、事業者に協力をいただきながら運転手という職業のアピールについても検討したい。

(委員)

高齢者の事故が増えており、高齢者講習に来るお年寄りの中には運転が酷い方もいる。公共交通の利用が上手くできれば免許を返納しても安心して移動ができるので、運転の危ない方がいたら家族の方が返納を促すことも考えてほしいと思う。

(事務局)

今回は、10月に協議を予定している。

6 閉会

以上